

平成 26 年度 長伏小学校区きずなづくりトーク トークまとめ

7月8日(火)に開催された「長伏小学校区きずなづくりトーク」にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。トークのまとめができましたので、送付いたします。

なお、長伏小学校区では、【防災訓練】【地域の連携】の2つの分野について、意見交換や情報共有が行われました。(市のホームページにも掲載)

問合せ 地域安全課 きずなづくり推進室 (電話 9 8 3 - 2 7 0 8)

皆さん、ご参加ありがとうございました。



【当日参加団体一覧】

団体名		
松本町内会	消防団第 18 分団	中郷西中学校 PTA
長伏町内会	松本幼稚園	中郷地区地域包括支援センター
御園町内会	松本幼稚園 PTA	地域づくりコーディネーター
環境美化推進委員会	長伏小学校	御園区子ども会
スポーツ推進員	長伏小学校 PTA	子ども会連合会
民生委員・児童委員	中郷西中学校	

※当日参加者 23 名

アンケート：分野ごと最も話したいテーマについて、参加者の希望を伺いました。



【会場アンケート結果】

	検討テーマ
防災訓練	①訓練実施時期について考えよう！・・・・・・・・・・3人 ②中学生が活躍できる防災訓練とは？・・・・・・・・・・4人 ③要援護者をどのように把握し助けるか？・・・・・・・・8人 ④住民の防災意識を向上させよう！・・・・・・・・・・7人
地域の連携	①地域全体で子どもを育てていこう！・・・・・・・・・・13人 ②スポーツを通じて地域のきずなを深めよう！・・・・9人

下記のテーマにもとづいて発言された内容について、現状・課題を「今まで」、課題解決につながる取り組み・アイデアを「これから」に分類し、まとめました。（○：参加者発言 ●：市長発言）

【防災訓練】

今まで	これから
<p>テーマ① 訓練実施時期について考えよう！</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○PTA の奉仕作業や廃品回収は全校指導。他地区でそういう事例はない。この地区の中学生は昔から地域行事に参加しようという意識があるので、たとえ防災訓練の日がばらばらでも、中学生の60%以上が参加する。 ○実は先週、中郷西中PTAでもこの話題が出たばかり。長伏は12月第1日曜日にやっていて、実施日を統一しようということで、調査している。 ○中学生の参加は多いが、小学生は5、6年しか出ていなかった。「子ども会で炊き出しを手伝って下さい」という形でやっているの、低学年の子たちは参加率が低いのかなと思う。いつも決まった子どもたちしか出て来ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○静岡市では防災訓練の参加率は90%なので、そこまで目指したい。それには訓練日を1日ないしは2日に統一してくれると、中学校で部活を中止できるので皆が参加できるようになる。 ○実施日を統一して、もっと子ども達の参加を積極的に進めていければ、小学生、中学生の防災意識が向上すると思う。 ●長伏町内は12月最初の日曜日の「地域防災の日」を訓練日としている。できればその日に3町内が訓練を実施すれば、中学生の参加率は格段に高まる。冬場は部活も休めるので、中学生の参加率は高くなる。
<p>テーマ② 中学生が活躍できる防災訓練とは？</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ○なぜ中学生か。小学生は純粋だけど力がない。高校生は力はあるけど形ができてしまっている。中学生は純粋で力があって、ちょうどいい。また有事の際は、高校生と違って地区にいる。 ○4月から防災委員になり、防災をやりながら水防もやっている。台風の中、地域を守るため懐中電灯1つで30分おきに水位を調べに行く。今年、水防の訓練を長伏公園駐車場で実施。 ○学校の訓練は先生がやるので1つにまとまるが、地域ではなかなかそれはできない。 ○先日運動会や祭りがあったが、長伏小学校区には、幸いにまとめてくれる人がいると感じた。 ○毎年、第18分団は防災訓練に参加し、ポンプ操法の訓練などを行なっている。ポンプや消火器を中学生に指導している。 ○消防団は深刻な人手不足で非常に困っている。どうにかならないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学生が活躍できる防災訓練が大事である。 ○避難する際に中学生が先頭になることも考えられるが、中学生はやはり子ども。身体に覚えさせるしかない。普段の訓練にいかにか小・中学生を連れて、大人が参加しているかだと思う。 ○小さい頃から訓練に親しみ、学校で新しい訓練を覚えて、成長後、地域に戻ってきて訓練に参加してくれるのが一番いい。 ○中学生は少し年上の男性に言われると、言うことを聞く。若い消防団の方には地域の防災訓練で、学校の先生の代わりとして中学生をまとめてほしい。 ○消防団として非常にいいことなので、中学生に指導していきたい。まだその他にもやれることはあると思う。協力していきたい。 ○地震があり、二次災害で火災があった場合を考えると、地元の自主防災会でもっとしっかり取り組んでもらいたいと感じている。

今まで	これから
<p>○松本地区の消防団員も高齢化している。35 歳だが、下から2番目であり、20代は一人もない状況。地元の友人も働き盛りで、有事の際に地元にはいない人達ばかり。</p> <p>○中学生が何をしたらいいか。知恵袋がない。</p>	<p>○消防団と自主防災の連携が、今とても必要になってきている。</p> <p>○東京都杉並区の事例だが、バケツリレーの練習、給水車から水を運ばせる、お年寄りの話し相手、トイレ掃除、幼児を遊ばせる、こういった中学生だからこそできることを行なう。</p> <p>○市の方から、プロである防災アドバイザーを自治会の防災訓練の場に派遣してもらい、集まった中学生に何を教えるか、知恵袋を出してもらえるとありがたい。</p> <p>○中学生に期待することは、AED や三角巾。長伏では、それらを中学生に覚えてもらい、訓練の時に実際に指導してもらおう立場を中学生ができないかなど、今考えている。そうしたことをやることで、将来的に消防団の活動につながっていくことになると思う。</p> <p>○中学生に何ができるか、彼ら自身にも考える時間をぜひ作って頂きたい。中学生自ら、地域でどんな活動ができるか、自覚できると思う。</p>
<p>テーマ③ 要援護者をどのように把握し助けるか？</p>	
<p>○75 歳以上の方が多くなり、一人暮らしの高齢者も多い。</p> <p>○独居老人宅を回ったが、民生委員も皆 65 歳以上の年寄りで、何もできないと感じた。民生委員がもしできるとしたら、チェックくらいだと思う。</p> <p>○要援護者を個別訪問した時、「医療的な処置をしているので、家から出られない。家が潰れない限り、避難する気はない」と言う方もいた。非常に難しい。力のある人は昼間は仕事に出ているので、寝たきりの方が問題だと思う。</p> <p>○民生委員の調べる 65 歳以上の一人暮らしの方の中には、元気な方もいる。元気に活動されている方で、支援者に回って欲しいような方も要援護者リストに含まれている。長伏の場合は人数的にも多いので、自治会で再調査することも難しい。</p>	<p>○地域、町内、隣近所、組長などが、お互いに協力や連携しながら、今後この課題に立ち向かっていかなければならない。</p> <p>○町内会、自主防災会は町内全体をまとめることが大切なので、要援護者を救助できるのは、組単位しかないと思う。小さい単位の中で確認し連絡をとり、連携していくしかないのでは。</p> <p>○要援護者の中でも、本当にヘルプ、救助を求めて市に打診した方をピックアップしたい。そういうことが大切だと思う。</p> <p>○一律条件でリスト化するのではなくて、個々の様子を把握する。把握していく過程で全体がどんな状況か分かっていくことが大事。</p>

今まで	これから
<p>○御園町内会では、昨年、各家庭の人員調査をした。その中で身体不自由者はチェックしてもらった。市の要援護者リストは障害のある方と一人暮らしの高齢者になっているが、それ以外にも「身体不自由でも申請していない方」や「75 歳以上の夫婦二人きりの世帯」もある。</p> <p>○包括支援センターでは、市と直結した高齢者の個人情報を持ち合わせていない。本人や家族の方が相談に来て初めて、その方の個人情報を知り、必要なサービスに結び付けることが役割になる。大きく考えると、高齢者の総合相談窓口になる。</p> <p>●要援護者とは、一人暮らしの高齢者と障がいを持っている方。昨年、災害救助法が変わり、要援護者を救助する方向性が決められた。</p>	<p>○数日前に行った組長会で、各組にその調査名簿を渡して、「御園は水害が怖いので、災害時には早く情報を出すから、組長は災害弱者のいる家へ重点的に情報を流して、対処してくれ」とお願いした。早めに災害情報を出して、避難してもらうのが一番いいと思う。</p> <p>○広報みしま7月1日号「危機管理連載シリーズ」に、緑町の事例の「要援護者を把握し支援者を募集した」などの活動内容が載っている。他地域の活動を参考にしながら、自分の地域には何が必要か、どんな特性がありどんな課題が考えられるか、アイデアを出し合いながら、有効な方法を見つけて頂ければと思う。</p> <p>●町内毎に具体的に要援護者をどうサポートするか、計画作りを進めることになった。芙蓉台などはサポート隊があり、毎月一回訓練をしているので、参考にしてほしい。</p> <p>●二つの要援護者リストがあり、「救助が必要という方のリスト」はまもなく自主防災会に渡すことになっている。「救助は必要ないという方のリスト」は封をして渡すので、災害時に開封し、安否確認に活用してほしい。</p>

テーマ④ 住民の防災意識を向上させよう！

<p>○今まで、松本町内会では班を分けて資料を配るだけで、1 年間で終わってしまっていた。</p> <p>○東日本大震災で「釜石の奇跡」と言われた群馬大学の片田先生の話をした時に、「地域の方や保護者の防災意識を向上させるのは難しい。手っ取り早いのは、子ども達の防災意識を向上させること。それが家庭にも返っていく。」とおっしゃっていた。</p> <p>○有事の際に低学年の子ども達が貢献できるかという、疑問。ただ小学校低学年、幼稚園児にも有事の環境は必ず訪れる。</p> <p>○松本幼稚園では幼稚園なりの訓練をしている。園児は周りを頼って何かをする時期。松本幼稚園は中郷西中に避難することになっているので、何かと中学生のお世話になる。</p>	<p>○今年は、先月、市で防災講演を実施してもらったので、今月 12 日にその反省会を兼ねて、役員の防災意識向上を徹底的にやろうと思っている。</p> <p>○長伏小では、具体的には 9 月下旬に「防災・防犯の日」と位置付けて、起震車体験、消火訓練、防災食の試食などを通して、子ども達へ防災意識を芽生えさせる活動を行なっている。それが家庭（保護者）、地域の意識になっていくのではないかと思う。</p> <p>○子どもから親に教えることが、一番効果的な防災意識の向上になるのかもしれない。</p> <p>○日頃から防災意識を持つ、年齢に応じたできることをする、これがやはり大事なことだと思う。学校や地域の教育によって、力をつけていくことも大事なこと。</p> <p>○幼稚園では今年度も中郷西中に伺い、中学 3 年生の授業と共に訓練を行う。3 階が避難場所になるが、幼児は階段を 1 つ登るのも困難になるので、まずそこへ逃げることをやっている。</p>
---	---

今まで	これから
<p>○そもそもなぜ防災訓練をやるかという、どんなことがあっても「生きる」ため。まず子どもを生きさなければならぬ。</p> <p>○毎月 1 日と 15 日の 2 回、「災害伝言ダイヤル」の体験利用ができる。存在は知っているが、やり方は知らないという方が大勢いる。福祉関係の仕事をしている妻から、「施設では頻りに伝言ダイヤルなどの訓練を実施している」と聞いた。</p> <p>○松本幼稚園の職員も伝言ダイヤルの訓練をしている。</p> <p>○先日、幼稚園ではフェアキャストを使用した訓練を行なった。保護者に「小さい子がいる方はおんぶして、服装も整えて徒歩で来て下さい」と案内したところ、かなりの方が小さい子をおんぶして、遠い方は 30 分かけて迎えに来てくれた。</p> <p>○引取り訓練では、どこから迎えに行ったらいいのか問題。小さい子から先に迎えに行っても早く歩けない。引き取りの順番を統一してもらえんというと思う。</p> <p>○よく言われることだが、「手段の目的化」になってはいけない。防災訓練に来ることが目的になってしまうとそれで終わってしまう。</p>	<p>○子どもの成長段階に応じた役割分担がある。小学生は啓発部隊、中学生は実働部隊。小学生には多くの方に知らせる広報係として、走り回ってもらう。中学生には技術を磨いて、どんどん活躍してもらう(訓練参加率 90%目標)、という明確な性格づけができた。</p> <p>○未来がある子ども達なので、デジタル、アナログ、町内のありとあらゆる手を使って、生き抜かなければならぬ。それが防災訓練や防災意識の向上につながってくる。</p> <p>○「生きる」という意識を持つことが大事だと思う。</p> <p>○自分の会社でも、どれだけ防災意識を持っているか調査の意味も込めて、伝言ダイヤルの体験利用をやってもらった。最終的には家庭で取り組んでほしい。</p> <p>○緊急の避難セットや備蓄なども、防災意識の向上の 1 つだと思う。</p> <p>○小さい子を抱えた若い母親が多くいるので、啓発を兼ねて、保護者の方に伝言ダイヤルの訓練を今後やりたいと思う。</p> <p>○今年の訓練は目立って良くできていたので、地域に反映されていくのではないかと期待を持っている。</p> <p>○家族構成によって、避難の仕方も防災対策も変わってくる。幼稚園は同じような家族構成の方が集まっているので、お互いに情報を共有し、知恵を出し合うといいのではないかと。</p> <p>○仲のいいお母さん同士では情報交換をするけれど、園内の活動の中ではまだできていないので、これから情報交換していけたらいい。</p> <p>○防災訓練は手段であり、来て何をするか、目的は別にある。そういうところを大人も含めて考えていく必要がある。</p>

【地域の連携】

今まで	これから
<p>テーマ① 地域全体で子どもを育てていこう！</p>	
<p>○ずっと長伏に住んでいる。地域の大人に「生きる知恵」を小さい頃に教わり、今も教わっている。</p> <p>○長伏小の校訓は「底力」。</p>	<p>○地域の「生きる知恵」を子どもたちに橋渡しして、うまく伝えていきたい。</p> <p>○考える力をつけさせ、いざという時に能力が発揮できるような子どもたちを育てていきたい。</p>

今まで	これから
<p>○子育てでも地域の協力が重要。ゲリラ豪雨など、様々な自然災害があるが、実際親が働いて、小学校へすぐに引き取りに行けない場合がある。子どもが一人で帰れない場合、地域の防災ボランティアと一緒に見てくれるなど、非常に大きな力を発揮してくれている。たいへん力強い協力者がいる。</p>	<p>○長伏の場合、まず一時避難所に集合する。組の方が集まっているので、組の方が子どもの顔を覚える。何かあった時に保護者がいない場合は、まずここに集まり、そして組の人と一緒に小学校へ向かうと教えている。自分達だけでは対応できないので、組の方の協力が必要。地域の力が非常に重要。</p>
<p>テーマ② スポーツを通して地域のきずなを深めよう！</p>	
<p>○地元で子どもにスポーツを教えながら、子ども達を育成している。スポーツで判断力が養える。判断力は非常に大事。</p> <p>○先日、中郷地区の運動会があった。昔は各町内の子ども会が全ての子どもを把握して、参加していたが、現在は子ども会に参加しない家が増えてきていて、子ども会がない町内もある。そういう部分が昔と変わってきたと感じる。</p> <p>○御園は小学生が約 60 名いるが、おかげさまで 55 名近くが子ども会に入会しているので助かっている。</p> <p>○皆さんの意識の根底に「防災」がある。「生きる」という目標が長伏にはあるので、「みんなで生きよう」というまちづくりができる。</p> <p>●長伏 3 町内はお祭り、防災訓練、運動会をしっかりとやっている。阪神淡路大震災の時、お祭りをやっている町内は顔もわかり指揮命令系統もすぐできたが、お祭りをやっていない町内は大混乱だったという。</p>	<p>○子どもたちにはスポーツのことだけでなく、「生きる」という視点で自分で考えられるよう、最終的な判断力を身につけさせたい。</p> <p>○子どもを集めてイベントを行う場合でも、子ども会の枠を超えた町内・地域の協力が必要なのかなと思う。</p> <p>○防災意識がないので、子ども会の行事の時に、子ども会だけでもそういう活動ができればいいと思う。</p> <p>○子ども会の主な活動は、お祭りや体育振興会などの色々なスポーツ行事に参加することなのだが、子どもや若い世代の親が多いので、防災に関しても一緒に参加してくれるといいという思いはある。</p> <p>○消防団の格好いいお兄さんが来ると、子どもたちも喜んでやるのではないか。</p> <p>○防災を意識しながら、地域のきずなづくりをさらに深めることができそうな具体的なアイデアがたくさん出ているので、実現するようお互い色々な場所で連携しながら、推進して頂ければと思う。</p> <p>●運動会の目的は大きく二つあり、1 つは健康づくり、もう一つは子どもからお年寄りまで集まって、町内のきずなや町内を超えたきずなを作る場所になる。大勢参加するお祭りにしていくことが大事になってくる。一層参加者を増やすことで、皆が元気で明るく過ごせる町内に発展できると思う。</p>

今後の地域活動の参考にしてください！